

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793030016		
法人名	(有)アルコップ		
事業所名	グループホームふくじゅそう 鳥ユニット		
所在地	福島県石川郡浅川町大字浅川字越巻102番2号		
自己評価作成日	平成27年12月30日	評価結果市町村受理日	平成28年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様もスタッフも笑顔が一番。今の笑顔を大切にしたい。一瞬、一時の一人一人の笑顔を引き出せる関わりをしていきたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 職員の資質向上に取り組んでおり、毎月、計画的な研修会を実施したり、各種研修会への派遣や資格取得の推奨等支援している。 2. 毎月、各種災害を想定し、職員が少ない夜間想定避難訓練等多く実施している。また、消防署の指導を受けたり、隣接する工場の社員が避難訓練に参加する等、災害時の協力体制の構築に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「真心込めた旬のサービス」が提供出来るように、朝礼や会議では、5つのテストを復唱し、職員間の共有に繋げています。	法人の理念「真心込めた旬のサービス」実現のため、事業所理念の中の「笑顔」、「今を大切に」したサービスが提供できるよう、朝礼や各種会議で全職員で確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体(読み聞かせ、ハーモニカ)、事業所の近隣の会社、床屋さん、散歩道のゴミ拾い、草刈り、文化祭の参加等をして、地域と交流をしています。	地域の花火大会やお祭りの見学、クリーン運動に参加したり、認知症サポーター養成の講師をしたり、事業所の運動会に地域住民が参加する等の地域交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年には、家族、職員に向けての認知症養成講座を行ったのですが、今年には行われていません。支援方法を勉強しているが、地域の人々に向けての活動は行ってない現状です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回行い、年に6回開催していません。行政関係、家族会の代表の方に加え民生委員の方々が順番に参加していただき、利用者様の状況、行事の紹介、内容等を報告、課題についての意見などを頂いております。	定期的開催し、事業所の運営状況を報告したり、行政の災害時救護体制の取り組みや事業所への応援等について話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いています。また地域ケア会議に参加したり、連絡を取り合い、協力関係を築いています。	運営推進会議の委員である行政担当者に事業所の状況を説明したり、地域ケア会議で事業所のケアサービスの取り組みを報告している。また、利用者が制作した雑巾を町に寄贈したり、関係法規の指導を受ける等を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回確認日を設け、話し合いや勉強会を行っています。特にスピーチロックについての内部勉強会を行い、職員全員が拘束に対しての防止に努めています。	身体拘束排除マニュアルを作成し、研修会で、身体拘束やスピーチロックの弊害を周知する等、その防止に取り組んでいる。家族とも早い段階からリスクについて話し合い身体拘束をしないケアについて理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	接遇委員会、リスク委員会で職員が学んだ事を発表したり、自分の言動や行動が虐待になっていないか、常に頭に置いて支援しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に、この制度を利用していた入居者様があったが、制度は知ってはいるが、理解が一部のみで全員が共有出来ていないです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学や面談、相談を行い、契約時には管理者が十分な説明を行い、信頼関係に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を行い要望等を聴いています。連絡網などを作成し、災害時に利用したり、外部評価の結果を玄関に置き、どなたでも見ることが出来ています。	利用者との日頃の会話や家族の訪問、家族会での懇談等から、運営に関する意見や要望の把握に努め、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対しての面談を常に行っています。又ユニット会議で話合ったり、個々の意見や提案をリーダー会議で話し合っています。	管理者は2、3ヶ月ごとの個別面談や各種会議で年次有給休暇等の福利厚生改善、資格取得支援等の職員の意見や提案を受け、その改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対して、アンケートや意見を聴く場を設け面談をし、就業環境の把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を全員に告示し、本人の希望に沿って研修を受けていますが勤務の関係上全員が研修等に出席出来る機会は十分ではないと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会の参加や勉強会を行っています。(法人内での職場体験等を考慮中です。)		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅に行き、実態調査を行い、本人家族に日々の様子で困っている事、不安などを聞き入居判定に活かしたり、本人から聞き取りをしたり、表情を見て、くみ取る努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談出来る環境作りを配慮し、事務所や居室内で家族が困っている事を聴き、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の生活が把握出来るように、24時間シートを活用し、個々に合ったサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見極め、本人が出来る事を長く続けられるように支援し、行った事に対して感謝の気持ちを伝えています。(頼りにされることで、自信にも繋がっています。)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻りにカンファレンスに参加して頂いたり、面会時に様子を伝えたり、外出、ドライブ等で家族と過ごす時間を持つことが出来ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの床屋さん等が来てくれ、話しかけると表情良く安心して散髪が出来ている。生まれ育った町や観光地へ行くことで思い出し、懐かしむ声も聞かれています。	家族等の協力を得て馴染みの美容院を利用したり、墓参りやドライブ、外食へ出掛けたり、知人の訪問を受け入れる等これまでの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との間に、職員が入り、話題を提供したり、レクリエーションを通して関係を持ち、孤立しない様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族からの相談や支援はないが、地域の介護支援専門員などから、状況の確認などを行っています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の動きや表情、言葉等を観察し、カンファレンスなどでは、家族や職員の意見等を聞き、本人本位に検討しています。	帰宅願望がある方には家族の協力を得た外出や墓参り等の希望が叶えられるよう支援したり、これまでの生活から趣味活動や野菜栽培ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネ等に情報を提供して頂き、これまでの暮らしの把握に努めています。又入居されてから個別に感じ取ったことをスタッフ間で共有しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録、日誌等をもとにし、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度カンファレンスを開催、又必要時に、カンファレンスを行い、本人家族等の思いを職員が共有しプランに活かしています。	本人や家族の希望、これまでの生活や現在の生活能力、医師などの意見等から現状に即した介護計画を作成し、その支援経過を基に課題解決するためのサービス内容を検討し現状に即したサービス提供記録を2ヶ月毎に家族に報告している。また、3ヶ月毎に介護計画を見直し、状況変化時は迅速に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等は、申し送り時にミニカンファレンスを行い情報の共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時にカンファレンスを行い、その時々での支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、馴染みの床屋等を受け入れることで、一緒に楽しめたり、気分転換を行うことが出来ている。今後は受け入れる事だけでなく、出向く参加をしていく事も必要だと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で訪問診療を受けています。急変時には電話やファックスで受診し、適切な医療を受けています。又家族が希望されれば、その都度主治医と話し合い相談する機会も設けています。	利用者や家族の意向に添って馴染みのかかりつけ医や協力医の受診支援がなされている。希望者には月2回の定期的な訪問診療があり、結果は、電話又は書面で家族に報告し、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う体調や表情、行動が見られた際には、他の職員にも報告し看護師に伝え、必要な際には主治医に報告相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはきちんと情報が提供できるようにしています。連携室と連絡を取り合い、カンファレンスを行い対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての話し合いをし、同意を得ていますが、家族、先生、職員と連携を取りながら、その都度カンファレンスを開き、対応して行っています。	入居時に利用者や家族に重度化や終末期・看取りについての方針を説明し同意書を頂いている。また、身体状況の変化に応じ、その都度カンファレンスを行い、同意を頂いている。今年に入り2名の利用者を看取っている。看取りに関しての勉強会を実施し、職員間の連携が取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制、本人の対応は、リーダーの指示に従い迅速に行っている。全職員が病院での対応が出来る様持参するものは、まとめてファイルしてあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回防災訓練を行っています。(火災、地震、水害)隣接の会社と協力体制で、避難訓練を行っています。	年間計画のもと毎月防災訓練を行い、避難訓練には隣接する会社の職員も参加し地域の協力関係が出来ている。また、町役場と避難場所の設定や寝具関係の提供等、日頃から話し合いを行い連携している。非常時用備蓄品として米、水、味噌汁、紙、オムツ類等完備されている。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その方に合った理解が出来る声かけをしています。不快な思いを感じないような声かけを心がけています。(プライバシーにも常に意識して支援しています。)	利用者一人ひとりの人格を尊重しプライドを傷つけないように言葉遣い、声の大きさに気をつけながらスキンシップを大切にしている。接遇委員会で日常の接遇について検討、話し合いが行われており、居室入室の際のノック、声かけ等も徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尋ねたり、意見を出すことが難しい方には、選択して頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今、入居者がしたいこと、散歩や歩きたいときは、一緒に行動をし、支援したり、何をやるか出来る事を提案したりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面、整髪、髭剃りを声かけや介助にて行っています。本人の希望により美容院で髪を染めてもらう支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の皮むきや米研ぎ等を行ってもらっています。行事の際にも下準備の手伝いを行い、一緒に作る楽しみを感じてもらっています。食事がうまく摂れない人には声かけ、捕食介助をしています。	利用者の出来る範囲で下準備等の手伝いをして頂き一緒に作る楽しさを感じてもらっている。職員も同じメニューと一緒に食べ、楽しい食事を行っている。嗜好については、日頃の関わりや家族から情報を得て、行事食やお楽しみメニューに取り入れている。食材として事業所の畑で採れた野菜を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者に献立、材料をお願いしているので栄養バランスは摂れています。水分量はその人に合わせた量が確認出来るボードに記入し記録をし調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔衛生の声かけを行い、歯磨き、うがいを行っています。うがいは風邪予防の為に、緑茶を使用しています。週2回は、ポリドントを使用しての消毒も実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、誘導をしたり、夜間安眠出来るように腹部や足を温めたりして寝つきを良くするようにしています。	自立している利用者が11名と多く、排泄管理表より排泄パターンを把握し、声かけを行うなど、自立に向けた支援により自立排泄に繋がっている。失禁の際も自尊心を傷つけないような声かけを行い、羞恥心や不安を軽減する配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や、身体を動かす運動、レクリエーションを行っています。水分補給時には、本人が飲みたいものを提供し、水分が十分取れる様に工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっていますが、認知が進行し認識できない方に関しては、本人の状態やタイミングに合わせて入浴をして頂いたり、仲の良い入居者様同士と一緒に入ることもあります。	利用者の希望や体調に合わせて、週2～3回入浴支援をしている。仲の良い利用者との入浴や同性介護の希望に応じたり、入浴剤、菖蒲湯、ゆず湯等を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、畳の所や、ソファ、長椅子等を利用し休息をしたりしています。日中はなるべく活動して頂くように、声かけ支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬内容は、棚にファイリングをしたものがあり、いつでも見れる状態になっており、症状の変化は先生に相談し処方して頂いています。服薬時は、職員同士確認しながら行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事を見極め、お願いしています。(洗濯たたみ、テーブル拭き)頼りにされていると感じられるようにしている。散歩、体操、レクリエーション、カードゲーム等で気分転換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添い、近くの神社、川辺等に散歩に行ったり家族の協力を得て、外出が出来ています。	利用者の希望をとり入れ、地域の神社や川辺周辺の散歩や花見や紅葉狩り等の名所地にドライブしている。また、希望に応じて家族とのドライブや外泊、墓参り等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所に管理しており、欲しいもの等がある場合いには、担当者又は一緒に買い物に出かけ対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときには、いつでもかけることが出来、家族より国際電話が入り話ししてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節を感じられるような装飾をしています。温度や湿度も一定に保ち、電気も明る過ぎず、暖かみのあるものを使用しています。	廊下、居間、食堂は温度、湿度を一定に保ち心地よい生活環境となっている。居間の座席は利用者間の相性等を考え決められるなど配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で居れる空間や風を感じられるテラス、他者と一緒に過ごせるフロアに、所々に椅子を置き、いつでもひと休みが出来るようになっていきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自分の居室がわかるように名前をドアに貼ったりテレビ、家具、写真や家族が持ってきた装飾品等を飾り、過ごしやすい居室に配慮をしています。	居室は、使い慣れたコタツ、タンス等の家具類を配置し、写真や趣味で書いたお習字などが飾られていて、各人らしい部屋作りがなされ、心休まる空間となっている。看取りの時などには、家族の方が同じ居室に宿泊する場合もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには便所と張り紙がしてあり、わかりやすくしています。廊下、フロア、トイレに手すりがあり歩行が安全に出来るように生活しやすいようにしています。		